

平成15年度 定期作況報告

(8月20日現在)

北海道立中央農業試験場

水稻の部

稲作科 (岩見沢市)

気象概況

7月下旬：平均気温は平年より4.6 低かった。降水量は平年比22%、日照時間は平年比119%であった。

8月上旬：平均気温は平年より0.7 低かった。降水量は平年比200%、日照時間は平年比67%であった。

8月中旬：平均気温は平年より1.3 低かった。降水量は平年比6%、日照時間は平年比111%であった。

以上、1ヶ月を通じ気温は平年より2.3 低く、降水量は平年比74%、日照時間は平年比98%であった。

7月下旬? 8月中旬気象表

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	21.6	26.2	4.7	24.2	25.7	1.5	23.8	25.2	1.4	23.1	25.7	2.6
最低気温()	14.4	18.9	4.5	18.2	18.1	0.0	16.4	17.6	1.2	16.3	18.2	2.0
平均気温()	18.0	22.6	4.6	21.2	21.9	0.7	20.1	21.4	1.3	19.7	22.0	2.3
降水量(mm)	16.0	72.7	56.7	97.0	48.6	48.4	2.0	34.1	32.1	115.0	155.4	40.4
日照時間(hr)	57.0	47.8	9.2	34.2	51.2	17.0	54.6	49.2	5.4	145.8	148.1	2.3

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成5年～14年の10か年平均値を農試が算出し、使用。最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。

作 況

水稻 作況：不良

事由：6月下旬より7月下旬まで続いた低温の影響により、水稻の生育は極端に遅延し、出穂期は平年に比較して10日(きらら397)および12日(ほしのゆめ)遅れた。8月に入っても低温に経過したため生育はさらに遅れ、草丈は平年より14.0cm(きらら397)および18.3cm(ほしのゆめ)短く、葉数は0.5葉(きらら397)および0.6葉(ほしのゆめ)少なかった。

以上により、現在の作況は不良である。

品種名	幼穂形成期(月.日)			止葉期(月.日)			出穂期(月.日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397	7.12	7.08	4	8.01	7.23	9	8.14	8.04	10
ほしのゆめ	7.13	7.07	6	7.30	7.21	9	8.13	8.01	12

品種名	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			主稈葉数(枚)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397	68.5	82.5	14.0	655	639	16	10.8	11.3	0.5
ほしのゆめ	67.9	86.2	18.3	703	680	23	9.5	10.1	0.6

注1) 平年値は前7か年中、平成9年(最凶)、10年(最豊)を除く5か年平均。

注2) 平成14年より従来の泥炭土圃場から奨励品種決定調査圃場であるグライ土圃場に移動した。

注3) 耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土
 施 肥 : 高度化成472全層施肥 N? P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥2,000kg/10a
 播 種 量 : 中苗紙筒 = 180cc/箱
 栽 植 密 度 : 30 × 13.3cm 25株/m² 4本植え
 移 植 方 法 : 手植え
 反 復 : 2

畑作の部

畑作科 (長沼町)

気象概況

7月下旬：著しい低温に経過し、平均気温は平年に比べ4.2 低い17.1 であった。降水量は少なく16.5mmであった。日照時間は平年に比べやや多い44.0時間であった。

8月上旬：気温は平年並に推移し、平均気温は20.4 であった。8月8～9日にかけて台風10号を含む大雨の影響により115mmの降雨があった。そのため降水量は平年に比べ多く、131.5mmであった。日照時間は平年に比べ20.0時間少なく、21.1時間であった。

8月中旬：気温は低く推移し、平均気温は平年に比べ1.2 低い19.3 であった。降水量は少なく4.5mmであった。日照時間は平年に比べやや多く、44.3時間であった。

以上、1ヶ月を通じて気温は低く推移し、平均気温は平年に比べ2.0 低い18.9 であった。降水量は平年並の152.5mmであった。日照時間は平年並の109.4時間であった。

7月下旬～8月中旬気象表

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温 (℃)	21.0	25.0	4.0	23.4	24.7	1.3	23.3	24.1	0.8	22.6	24.6	2.0
最低気温 (℃)	14.2	18.6	4.4	18.2	17.9	0.3	16.6	17.6	1.0	16.3	18.0	1.7
平均気温 (℃)	17.1	21.3	4.2	20.4	20.8	0.4	19.3	20.5	1.2	18.9	20.9	2.0
降水量 (mm)	16.5	49.8	33.3	131.5	55.9	75.6	4.5	44.2	39.7	152.5	149.9	2.6
降水日数 (日)	1.0	4.2	3.2	4.0	3.7	0.3	3.0	4.0	1.0	8.0	11.9	3.9
日照時間 (hr)	44.0	34.7	9.3	21.1	41.1	20.0	44.3	36.3	8.0	109.4	112.1	2.7

注1) データは「アメダス長沼」を使用。平年値は平成5年～14年の確定値を10年間平均し、本年値は平成15年の速報値を用いた。

注2) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。

作況

1. 秋まき小麦 作況：良

事由：6月下旬以降の低温により「ホロシリコムギ」の成熟期は平年より6日遅い7月29日であった。穂長および穂数が平年を上回ったことから、子実重は平年より「ホクシン」で123%、「ホロシリコムギ」で130%と多収となった。登熟期間の少雨により倒伏の影響は少なく、リットル重が平年より重く、千粒重が平年並であることから、外観品質は良好である。

以上により、現在の作況は良である。

品種名	成熟期(月.日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ホロシリコムギ	7.29	7.23	6	103	94	9	9.0	8.4	0.6	627	533	94
ホクシン	7.19	7.19	0	96	88	8	10.0	8.2	1.8	696	624	72

品種名	子実重(kg/10a)				リットル重(g)			千粒重(g)			品質(等級)	
	本年	平年	比較	平年対比(%)	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年
ホロシリコムギ	613	473	140	130	793	762	31	44.4	44.1	0.3	-	1
ホクシン	632	515	117	123	812	777	35	39.5	39.2	0.3	-	1

注) 平年値は前7か年中、平成9年(最凶)、14年(最豊)を除く5か年平均(各収穫年度)。

2. 春まき小麦 作況：良

事由：6月下旬以降の低温により成熟期は平年より4日遅い8月5日であった。平年より播種期と出穂期が早く、成熟期が遅れたため生育および登熟期間が長くなり、穂数と千粒重が平年を上回ったことから、著しい多収となった。しかし、赤かび病及び穂発芽は少ないが開溝粒の発生があり、外観品質はやや劣っている。

以上により、現在の作況は良である。

品種名	成熟期(月.日)			稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/m ²)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ハルユタカ	8.05	8.01	4	88	81	7	8.6	8.6	0.0	473	436	37

品種名	子実重(kg/10a)				リットル重(g)			千粒重(g)			品質(等級)	
	本年	平年	比較	平年対比(%)	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年
ハルユタカ	492	272	220	181	816	756	60	44.1	35.4	8.7	-	規格外

注) 平年値は前7か年中、平成8年(最凶)、14年(最豊)を除く5か年平均。

3. 大豆 作況：やや不良

事由：6月下旬以降の低温により開花期は平年より4～7日遅かった。8月上旬は平年並の気温で日照時間が少なかったことから、「ユウヅル」では徒長による倒伏が発生した。「ツルムスメ」では、主茎長、主茎節数および分枝数は平年並となったが、低温の影響により莢の伸長および肥大が遅れている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

品種名	開花期(月.日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ツルムスメ	7.25	7.21	4	57.6	54.2	3.4	12.7	12.4	0.3	6.3	5.7	0.6
ユウヅル	8.05	7.29	7	86.3	72.3	14.0	16.7	14.6	2.1	5.3	5.4	0.1

注) 平年値は前7か年中、平成10年(最豊)、14年(最凶)を除く5か年平均。

4. 小豆 作況：やや不良

事由：6月下旬以降の低温により生育は遅れ、開花期は平年より9日遅い8月2日であった。8月上旬以降、ほぼ平年並の気温で経過したため、主茎節数は少ないが主茎長と分枝数で生育の回復が見られた。開花期の遅れにより莢の伸長が遅れ調査時の着莢数は平年より少ない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

品種名	開花期(月.日)			主茎長(cm)			主茎節数(節)			分枝数(本/株)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
エリテシヨウス	8.02	7.24	9	49.8	49.5	0.3	11.3	12.5	1.2	5.2	3.7	1.5

品種名	着莢数(莢/株)		
	本年	平年	比較
エリテシヨウス	30.0	39.3	9.3

注1)平年値は前8か年中、平成12年(最凶)、13年(最豊)および8年(茎疫病多発)を除く5か年平均。

注2)着莢数は、8月20日現在で莢の長さが3cm以上のものを示す。

5. ばれいしょ 作況：良

事由：7月下旬が低温・旱魃状態で経過し、茎葉の黄変が早期に始まった。このため、枯凋期は8月14日で、平年より9日早かった。低温旱魃後に多雨となり、急激な塊茎肥大を招いたため、裂開の発生が目立っている。上いも1個重は平年並であったが、上いも数は平年比115%と多かったため、上いも重は4,260kg/10aと平年比110%、中以上いも重は3,494kg/10aと平年比112%の多収であった。でん粉価は15.9%で平年よりかなり高い。

以上により、今年の作況は良である。

品種名	枯凋期(月.日)			上いも数(個/株)			上いも一個重(g)			でん粉価(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵薯	8.14	8.23	9	11.7	10.9	0.8	82	82	0	15.9	14.6	1.3

品種名	上いも重(kg/10a)				中以上いも重(kg/10a)			
	本年	平年	比較	平年対比(%)	本年	平年	比較	平年対比(%)
男爵薯	4260	3876	384	110	3494	3127	367	112

注1)平年値は前7か年中、平成11年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年平均。

注2)「上いも」は21g以上、「中以上いも」は61g以上のいもである。

6. てんさい 作況：良

事由：この期間は全般にやや低温で経過したが、適度な降水量に恵まれ、根部肥大は順調であった。前期までの平年を上回る順調な生育に引き続いて、8月20日現在の生育は、草丈がほぼ平年並、葉数が平年比117%、根周が平年比110%と平年を上回っている。ヨトウムシの食害が多少認められるが、褐斑病など病害の発生は未だ認められない。

以上により、現在の作況は良である。

栽培法	品種名	草丈(cm)			葉数(枚)			根周(cm)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ	60.4	62.2	1.8	30.6	26.2	4.4	32.6	29.7	2.9

注)平年値は前7か年中、平成10年(最豊)、12年(最凶)を除く5か年平均。

7. 中央農試作況報告について

平成13年度より、すべての作物で土壌物理性・排水性が改良された基盤整備後の圃場を使用している。

当報告は、中央農業試験場のほ場において行った生育調査について、調査時点における値を中央農業試験場の平年値と比較したものであり、当該管内の作況を代表するものではありません。